

ウミガメ戻ってきて 望海浜で60人が清掃



砂浜に打ち上げられたプラスチックごみなどを集める参加者＝明石市船上町

ウミガメが産卵に来る海に戻そうと、明石市船上町の望海浜で15日、市民ら約60人が海岸清掃を行った。親子連れらが打ち上げられたペットボトルや小さなプラスチックのかけらなど漂着ごみを拾い集めた。

淡路島と明石海峡大橋を一望できる同浜には2015年以降、ウミガメの産卵の記録はない。清掃活動は明石市を拠点に活動しているNPO法人「おーえんくらぶ」の主催で、18年から取り組んでいる。

この日は環境カウンセラーの西谷寛さん(64)が参加者を前にプラスチックごみが環境に与える影響を説明。「ここは生き物も流れ着く海岸。漂着ごみを片付けないと、また波で海に戻り、いずれ海底に沈んでしまっ」と地道な活動の大切さを訴えた。

参加者は黙々と作業を続け、約30分間でごみ袋が山積み。朝霧小5年の岩本宗馬君(10)は「小さいプラスチックが多かった。ごみの捨て方に気を付けたい」と話した。(長沢伸一)